

令和7年度地域課題整理表

(小地域ケア会議、各対策会議、参加者アンケートより)

課題大分類	課題	課題を感じた場面	支援・社会資源など解決方法(案) ※アンケートより
見守り	高齢者の孤立	【自立している高齢者の見守り】 ・支援を必要としない元気な高齢者へのサポートが少ない ・介護サービスを使わず、買い物は生協で済ませ、外に出る用事が無いと言われる方がいる	・地域で支えあう環境の充実を推進するために、市民の意識の変化を促していく必要がある。
		【地域とのつながりの希薄化】 ・高齢男性が外に出て行く意思が少なく、外出拒否が強い ・独居高齢者が増えており、地域のなかで孤立している方が多いと思われる。 ・地域から孤立しているため、高齢者が助けを求められていない可能性もある。	・定期的な安否確認 訪問メール電話 ・配達、見守りネットワークの人材 ・地域の中で高齢者が集まれる場や会話などができる場を積極的に設ける。 ・孤立高齢者を地域の医療従事者と共有するネットワーク
		【その他】 薬剤師として独居で服薬アドヒアランス不良が目立つ	・多職種連携が必要
	身寄りがいない	【手続書・契約・緊急時の対応】 ・認知症がもたらす進行する前に後見人問題を解決できれば話しはさせてもらえなかながまま進まない。 ・身寄りがいない、家族が仕事や遠方の人・キーパーソンと希薄な関係性などの理由ですぐに対応できる人がいない場合。 ・一人暮らしのためヘルパー案件以外のことでできないことがある。契約などを行うことができる適切なサービスがない。	・後見制度の理解の拡大 ・後見人制度の説明もしており、親戚も知ってはいるが、申請にはいらない。 ・出来るだけ、費用を抑えた支援制度 ・病院で出来るだけ対応してもらえ。電話での情報で対応してもらえ。 ・身内代行事務所(公的機関であれば)
	認知症当事者の見守り	・徘徊等の問題 ・外出すると心配になる ・買い物購入品が多い ・介護サービス提供時間外の行動が不明 ・認知症当事者が介護サービスを拒否 ・医療等の消費者等にあっては不安になると警察を呼んでしまう 【認知症についての理解促進】 認知症当事者を地域で支える、という気持ちはあるが「認知症」への理解を含め個人差が大きくなる。また、支える側の地域の自治体の高齢化と担い手不足により、関係性の希薄化が不可避で生じる。	・GPS等で常に誰かがフリーハガーに日誌確認し見守る支援 ・地域ぐるみの見守り、日々の声掛け ・見守りサービス ・家族や知人との交流の場 ・独居世帯、若しくは問題のある方の自宅について、警察の巡回協力。
複合した課題を抱える世帯	・相談内容の問題が多岐にわたる ・家族の理解が乏しく支援が必要であっても介入出来ない時。 ・家族それぞれ課題解決が必要状況 ・高齢者の認知が障害をお持ちの子供の面をみているが、充分な支援が受けていない。 ・キーパーソンの家族が精神疾患等で判断が怪しい ・外部からは支援が必要に感じる対象者がsaeを出さず、支援を必要と感じてくれない。	・地域全体での見守り ・キーパーソンである家族が支援や病状等について理解・認識できない際に使える支援制度 ・ネットワークの構築	
安否確認	・独居。電話連絡もつかず誰もかかっているため、安否確認に時間がかかった。 ・テラーサービスで迎えに行った際、亡くなっていて ・家族がこまめに訪問していたが、自宅で倒れていた	・民生委員や自治会、また包括支援センターによる見守り、声掛け ・近隣のたこのコミュニケーションがとれる対策を考える ・ご近所とのつながりがない高齢者への定期巡回。	
消費者被害	・認知症の方が医療等で被害にあった ・詐欺や悪質訪問販売の増加 ・高齢者、障害者の防犯について ・スマホなどのフィッシング詐欺や特殊詐欺の横行	・地域の信用できる店を利用する。地域優良店集、協力店一覧作成。 ・気軽に聞ける総合窓口や近隣の見守りや声掛け	
災害	BCPの作成・介護保険事業所の連携	・BCPの取り組みにおいて、自分自身がどこに避難すればいいのかわかっていなかった。それでは担当の利用者の方に伝える事が出来なかつた。 ・能登半島地震での高齢者施設入所者のニュースを観て、法人単体で対応できない事柄を自らの担当に、連携の重要性を痛感した。 ・台風等避難勧告が出ても確たる独居高齢者は避難できない・地域との関わりも無い為ケアマネジャーが関わるのでしようが移乗ができない ・能登半島地震を受けて、当法人単体で出来ないケースが想像以上にある事、またそれを想定出来ない現状に気付いた。 ・業務について災害について多職種の入連と話をあつた事がない	・電話が繋がらない、ネットが繋がらない、道路が通行できない等の想定をし、多角的な情報交換の方法を事前に構築する。 ・災害時介護施設も大変で動けるかどうかわかりませんが、近隣に要介護の確たる独居高齢者がいるかどうか不明の為動けない。当施設利用の方は把握していても他の施設利用の方は把握できていない ・事前準備や、避難訓練、また災害後1~2週間を想定した避難訓練?事業継続訓練?の必要性を説いたり、実際にやってみる機会を設けることで、各事業所内での意識付けを促す効果があるのではと考えています。また、災害が起こった時に、どういった連絡を、どこ(主に公的機関)と取るのか、報告先や報告内容等の取り決めを事前にした方が良いのではないか。また有事以前に、連絡方法に関して、電話が繋がらない時、ネットが繋がらない時、道路が通行出来ない時など、段階的に取り決めがあった方が良いのではないかと考えます。色々な、様々な、多岐にわたる、複合的な、問題が起きた時に、「行動」を躊躇することなく行うためには、いかに単純に具体的な指示を出せるか。また迷いなく行動を起こすべく、いかに事前に想定するかが、非常に重要であり、効果的だと思えました。
	ネットワークの構築	・年長の震災を受けて、高齢者の居場所が避難に戸惑ってしまうシーンを見たため ・地域から、孤立して、避難の誘導ができない近隣住民の協力近所付き合いが希薄になっている	・気軽に語りあえるような避難訓練を作る。 ・普段からの避難についての研修、正常性バイアスを防ぐような誘導 ・避難ボランティアを募集する。小さいコミュニティを繋ぐ為、誰かがコーディネーターする人が必要である。 ・施設が、避難所の役割を持つようにする事を構築していく。 ・避難支援ボランティア(コーディネーターあるいはリーダー的な存在も必要)
	要介護者避難名簿の活用	・独居高齢者の避難計画はどの様になっているのか?本人とのコミュニケーションが日頃からもたなければ避難時に障害が生じる ・台風等避難勧告が出ても確たる独居高齢者は避難できない・地域との関わりも無い為ケアマネジャーが関わるのでしようが移乗ができない ・災害時に地域にどのような要介護者が存在するかの情報も必要ですが、地域に住んでいないから自らの情報共有ができていないことでの、救える命を救えない事は絶対だと思っています	・近隣、自治会、民生委員、消防署、災害対策の機関 ・地域に情報を共有する施設、居場所を設置して、日時の情報交換が必要と考えます。それが小学校に設置されている、地域安全センターになると思いますがいかが、機能していません。
	避難所の周知	避難時の避難場所の確認ができていない	・地域での見守り ・避難訓練の実施 ・市民の理解の把握やニーズを適切に捉える
	避難所での対応	避難した際の関わり方	実際の被災現場での様子を学ぶ
災害時の安否確認	地震の時に安否確認のための電話が繋がらない	地域の支援者を増やす	
災害時の情報	・石川県の地震。全県の場合は、どのようにしたらよいか。震度は、どこかの情報を伝報すればよいか。 ・災害時のツールが大東市には沢山あるが、市民が活用できていないように感じるため	・自衛隊の活用。 ・大東市防災アプリの周知、利用	

生活	交通手段	<p>【買い物・通院・通いの場等の交通手段】</p> <p>一人での移動で、体調不良時に安全に病院へ行くこととするとタクシー代等がいつもよりかかる。介護タクシーが深く、福祉輸送になることで費用負担が増えている。通院や買い物、又通いの場に行きたくても歩行困難で一人で行くのは難しい。タクシー等は経済的に無理だと仰るケースが多い</p> <p>【コミュニティバス・相乗りタクシーの利用について】</p> <p>巡回バス等であってもそれを利用するバス停まで行く手段がない。バスも、回数が少ない。乗り合いタクシーもルートが決まっていたり、それに合わない事がある。病院や市役所へ行くまでのコミュニティバスの乗り継ぎが大変。コミュニティバスが利用できない地域がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市からの補助 ・安価な受診時の介護タクシー（市街地）ライドシェアタクシーの導入・活用。 ・コミュニティバスの本数の充実。相乗りタクシーの利用の簡素化。 ・歩いていく際の支援者の充実（通院付き添いと買い物付き添い生活サポーターさんの活動車以外で、車椅子とか、誰でも手伝う事ができるシステムの考慮。 ・病院とか外出した時に、ついでに買い物などしたい。歩ける人に、一緒に付き添う人が居るといい。 ・包送支援センターやお話しが出来るボランティア、近隣の付き合いができる対策を考えるデイスーパー等の送迎の空車時を利用し、福祉車両の活用
	ごみ出し	<p>ゴミ収集の時間が早く対応出来ない時。当もにしか出せない為、対応出来るヘルパー訪問時に、出してもらおうとカラスなどに荒らされる。生活サポーターさんの不足</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別収集等 ・ボランティアなど家事の手伝いをできる機能を周知する。
	買い物	<p>【サービス・手帳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者から、一緒に行って品物を選びたいと希望があった。 ・重いものを運ぶことや一人でスーパーに行くことは難しいが、自分で買い物に行きたいという声がある ・傾聴出来るスキルを持った方に買い物支援を公的に保障して欲しいという声があった。 	<p>充実した買物同行サービス。自費でも少し安めで月1回でもいけたら生活の楽しみができるのでは</p>
	貧困	<p>「お金が無いから幸せではない」「月々の支払いで精一杯はいい、何も望んではいけぬ」「生きていて美しいことはもう何も無い」という意見を聞いた。</p> <p>・物価の高騰、人件費や燃料の価格上昇を受け、生活する(生きる)為に必要な費用がますますかかる。GOALの向上に向けての活動にかかる費用で資金がまわらない。</p>	<p>無料で利用することの出来るサービスの周知、参加促進の機会の増加。「享受する」と「稼ぐ」は似て非なるものであり、「生存権」を放棄することがあってはならないと、強く考えます。物価上昇や人件費の高騰のありを受け、孤独や孤立を感じる方々には特に、「この大東市」の市民である事、一人で生きているのではない事を感じてもらえる取り組みに参加していただきたいと思いますし、またそういった「明日」を想像できる機会を、全力で進めていきたいと思えます。</p>
	住宅	<p>【住環境】</p> <p>エレベーターがない 公共交通機関が近くにない</p>	
通いの場	通いの場の多様性	<p>【世代間交流・多様な交流の場】</p> <p>多様な交流、子や孫や孫の孫と高齢者などが自由に、簡単に、フラットに立ちあがる環境の場が必要と考えます。多様な居場所が少ない。出てこない方がこれなら出てこれるといった内容の通いの場があっても、初めての方は参加しづらい</p> <p>【男性の通いの場】</p> <p>人と関わりが嫌な男性は多く、又何をするのも嫌がる。サロンなど女性参加者がほとんど見られない。個人の関わりが苦手であったり、社会的地位が高かった人等、わがままが通らない等が孤立してしまう</p>	<p>空き家や空き店舗、地域の公民館などの施設をもう少し簡単に利活用できるシステムの構築が必要と考えます。初めての人でも参加しやすい雰囲気や環境を設ける。趣味を活かせるような内容の場を設ける。</p>
	通いの場が少ない存在しない	<p>【担い手不足】</p> <p>運営に携わる(支える)方が少ない。高齢化しており担い手不足が懸念されている。</p>	<p>積極的な公的支援や協力する地域に点在する事業所へのサポート体制</p>
	通いの場を知らない	<p>通いの場の周知があまりできていない。どんなことができるのか?どこにあるのか知らない方が多い</p>	<p>看板やポスター等、解りやすく目立つ物を作成。チラシや口コミなどで周知</p>
	情報共有	<p>【事業所間での情報共有】</p> <p>他職種連携での共有が上手く機能していない感がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携の行き違い ・訪問看護ステーション間での情報共有が出来ていない。 ・サービスに対する提供者同士をはじめ利用者を含めて情報の共有が必要 <p>【地域住民への情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が情報を得づらいうように思います(特に孤立高齢者)。 ・「地域連携」をする為に、今のような取り組みがあるが、情報の探し方、ある程度の知識が必要だと感じる。言われるがまま、又最初から諦めてしまっている、高齢者や家族がいる。 ・散髪やマッサージに自分で行けなくなったという声を聞いた時や、掃除など出ていたことが出来なくなったからほったらかしにしてしまった声を聞いた時。 ・市役所や地域包括センターではどのような取り組みが行われているかを調べようとした時に、得たい情報にたりどころにも、スキルや環境が必要だと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・MCS活用での共有 ・機会を増やす
情報	情報発信	<p>【情報発信の方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホ取扱いやモバイルから情報収集は出来るようになっているが、対象となる高齢者等が当事者としての意識が持ちにくい。扱い自体を諦めている。 ・色々なサポートがあるのに、知らない方が多い ・ネットでの申し込みや案内等は高齢者は難しいこともあるかなと感じます。 ・携帯を使えない高齢者は多く発信することがない。 <p>【制度について】</p> <p>あきらかに介護が必要とされる方が介護保険の使い方がわからない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の通いの場、お茶のみ休憩所などでの定期的な講習会、情報発信を実施する ・携帯使い方の勉強会や貸し出しなど
	デジタルデバインド	<p>【地域住民】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とんだ情報もデジタル化していくのでわからないままでは孤立にも繋がる。インターネットの世界を知っていたらさきからでも外の世界へ繋がることのできるのを感じて居場所を作ることが出来る。 ・パソコンやスマートフォンを使える前回の制度が多く、活用できていない方が多いため ・高齢者の方はスマホやパソコンを活用することが難しく、訪問時に情報を見せると「便利だなー」と仰るも、使用することはできないと仰る。 <p>【介護業界】</p> <p>まだまだPCやITが苦手な介護業界です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの教室やインターネット、デジタル商品をたくさん扱えるようになる教室の充実 ・現在もスマホ教室などすでに取り組んできているが、もっとそのような教室が簡単に受けられることのできるシステムがあればいいと思う。
	その他	<p>・夜間や休日にも電話がかかってきて、民生委員の負担が大きい。</p> <p>・介護サービス従事者の高齢化、生産年齢人口の減少が確実に起きているため、介護従事者が発生しない心配の中で介護支援を行っている不安感。見えない不安感を抱きながら介護に従事していませんか?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員に相談用の電話を支給し電話できる時間に制限をかけるようにする。 ・徹底的なテクノロジー活用。洗濯は、乾燥まで確実にできる全自動洗濯機の導入。掃除は、断捨離を開始し、散らからない、掃除の必要のない、環境作り。食事は、配食、買い物はインターネット。その代わりに自宅月1回、地域飲食店より高級ディナーターラックサービスの提供。